

保安強調月間

その中身は？

負傷者は跡を絶たず

空転するファン、噴き出す熱風

会社は、九月いっばい「保安強調月間」として、社内報の、くろだいや新聞、や、構内に垂れ幕をはるなどして保安への注意の喚起に努力してきた。だが、その中身は果たしてどうだったか。ここに三川鉱の職場の一組員から寄せられた手記がある。

三川指導部

一組員

会社、保安強調月間運動へ

三川鉱では、九月を「保安強調月間」として取り組んだ。

さて、三川鉱でその取り組みの「な」などが中心点であったらしい。実態はどうであったろうか。

まず、「負傷をしない、させない」ということを中心に、会社の啓蒙宣伝が行われ、昇坑後に係員と先山に対する保安教育が行われた。内容は、「保安を守れ、守らるる」「無理をしない、させる」の負傷者がいると聞くが、その数ははつきりしない。

俺たち

ゴッコブリか

「こ」は三川鉱坑底六十卸

35度の排気道 吹き出す汗

三川鉱坑底の六十卸東十二戸で、最近道中がものすごく熱くなってきた。捲立の交差線をはるのから冷たい風が吹くので、案外涼しく、上から下までじゅっくじゅっく。その掘進工連が、昇坑時を

退職金増額に強まる要求

炭労は秋闘争で、その一つの大切な要求の退職手当の増額の実現をめざしている。「坑外に三十年勤続した者で「一千万円」というのが案だが、これとて、人生のほとんどを炭鉱に働いておきながら、さて定年となっても家も建たない額に過ぎず、特に間近かに定年退職の日を迎えようとしている者の心はひととお暗い。

家も建ため「退職金」

36年勤続でやっと900万円

秋闘争が近づいてくるにつれ、自分の退職金は九百万円しかない。さすがに、職場から地域から退職金がわかった。子どもがまだ二人、入学校にいらるるので、土地を買ったり、家を建てたりするのは、二千万円に手がとどいたところ。子どもが福間にいるので、そのうちでもいっつか、女房と息子を、わづかばかりでも、厚

平川さんの場合は？

ついでこの間の九月四日に定年を迎え、港務所を退職した人に平川さんがある。

平川さんは昭和二十二年の二月十三日三池港務所に入社した。ほとんど電車運転を続け、こんど退職するまで三十二年と六月月と十三日間、働きつづめてやってきました。住まいは、長く住みなれてきた荒尾市緑ヶ丘住宅の隣町から、昨年の十二月現在住所の同市八幡台二丁目二二の新居に移った。昨できた退職金はいくら、六百一十八万六千八百八十八円。なんとわ

自分はこの七月に退職したが、三池の坑外に三十八年も勤めてきたから、加給金を含めてやると二千万円に手がとどいたところ。子どもが福間にいるので、そのうちでもいっつか、女房と息子を、わづかばかりでも、厚

面積八十五坪、家の建坪二十三坪の二つを買ったのである。九百六十万だったという。ところで、いったい平川さんが自分の人生のほとんどをきかえと、今はじめです。だからといって、働きたくても仕事はないときいて、ますます、私自身さてこれからどう生きていくか、目の前が真っ暗です」

六月卸西十三戸で異常高圧が加わり、そのため大加背が降籠、車道が曲った。そして炭車が脱線、送風管が切断されるほどの事故が起きている。

九月にはいつてからは、酷暑の余波が続くなかで、特に本層六十卸関係では坑道のあちこちの天井からの降雨があり、しかもそれは熱湯で、流れる水は温水だ。

四十片のマンベルトでは、冷却用のクーラーで使う水がなくなっている。クーラーのファンだけが空転しているために、頼みのクー

ラーからは熱風が吹き出し、作業現場は三十二度〜三十三度という状態。私跡も排気道にいたっては三十五度もあるといわれ、その熱さは異常だといつて、温度降下のための努力がされているものかどうか。作業員は汗ばみ汗びっしょり。その反面、出展だけはコンスタントに維持されている。

ベルトコンベヤーは休みなく運転され、マンベルト上石炭が載っていきまがいが動き続けてい

る。停止しようものなら、すぐ無線で呼び出され、鉸長率から停

止理由を求められる。

このマンベルトコンベヤー坑道は、切羽付近でも炭じんが集積が

いじり、たえ岩粉散布をして、白く塗られているのはほん

のそのときだけ。

もともと岩粉散布は、鉸山保安監督官巡視や全社の上役巡回の時

にかきつて行われるのが普通で、

また現場の係員や作業員もそうす

るものだと思う。

環境改善に小

手先ばかり

尻から、シロ(内臓のこと)ん

出るの仕事をしつづけて、かか

あや子どもは寝られず、もっ

ともっと労働条件はよくしても

わなくちゃ。坑底の職場の不安

全箇所なくせ。熱うしてだけ

ん。水々しい食わせる。

三川指導部七分会新聞「あせ」

(一五〇号記念特集号)から、荒

牧勝治さんの手記です。

かな退職金であることか。

平川さんの場合は、たとえ苦し

い算段があったにしても、定年前

に家が入手できただけにまだ救わ

れたといえるが、そんなことがで

きない一般の場合、果たしてど

んな悲境が定年後に待っているか、

思うだけで心が暗いはずだ。

「昔の炭鉱マンの話を書きます

と、会社に二十五年勤続すると祝

儀が出ていたそう、その頃はそ

の祝儀金が一軒ぐらいいは建って

いたらしいです。そんな昔に比べ

ると、今はじめです。だからと

いて、働きたくても仕事はない

ときいて、ますます、私自身さて

これからどう生きていくか、目の

前が真っ暗です」